

「科学の楽しさと大切さ、 そしてそれを実現するプロジェクト運営と人材」

ニュートリノ振動の発見により、
2015年に「ノーベル物理学賞」を受賞

東京大学卓越教授(宇宙線研究所)

梶田 隆章氏

日時

令和7年2月5日 (水)
16時～17時30分

場所

ホテルブリランテ武蔵野2階
エメラルドA
さいたま市中央区新都心2-2
(JRさいたま新都心駅より徒歩6分)

【主催】
サイタマ・レディース経営者クラブ
【共催】
埼玉県
【後援】
埼玉大学 (公財) 埼玉県産業振興公社
(一社) 埼玉中小企業家同友会女性経営者クラブ・ファミ、
埼玉りそな銀行、武蔵野銀行、埼玉縣信用金庫
飯能信用金庫、川口信用金庫、青木信用金庫
(一社) 埼玉ニュービジネス協議会
埼玉県生産性本部、埼玉県彩の国工場



写真提供：東京大学宇宙線研究所

「講師プロフィール」

1959年、埼玉県東松山市生まれ。

東京大学宇宙線研究所助手、助教授を経て1999年より教授。2008年から14年にわたり宇宙線研究所長を務める。2024年3月宇宙線研究所教授を定年退職。

岐阜県飛騨市の神岡鉱山の地下1000メートルに設置された実験装置「カミオカンデ」と「スーパーカミオカンデ」を使った実験に参加した。最も小さいと考えられる素粒子のひとつのニュートリノについて、地球の大気で生まれた大気ニュートリノを観測。移動中に粒の種類が変わる現象「ニュートリノ振動」を観測してニュートリノに質量があることを発見し、1998年の国際会議で発表した。

「ニュートリノ質量の存在を示すニュートリノ振動の発見」により、2015年にノーベル物理学賞を受賞した。現在は、大型低温重力波望遠鏡KAGRAのリーダーも務める。

お申込みはこちら
から➡

